



## 2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ヤマタネ

コード番号 9305 URL <https://www.yamatane.co.jp>

代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 河原田 岩夫

問合せ先責任者（役職名） 管理本部経理部長（氏名） 田崎 一郎 (TEL) 03-3820-1111

半期報告書提出予定日 2024年11月14日 配当支払開始予定日 2024年12月2日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	38,273	38.4	1,489	△18.7	1,430	△4.5	975	△31.1
2024年3月期中間期	27,663	8.7	1,831	△6.0	1,497	△21.5	1,416	24.7

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 2,136百万円(△55.3%) 2024年3月期中間期 4,785百万円(183.7%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	94.99	—
2024年3月期中間期	137.19	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年3月期中間期	157,031	57,993	34.1	5,184.57
2024年3月期	155,906	56,051	33.2	5,068.26

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 53,512百万円 2024年3月期 51,809百万円

(注) 当中間連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年3月期に係る各数値及び比較情報については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	25.00	—	40.00	65.00
2025年3月期	—	40.00	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	—	—	50.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	81,300	26.0	3,230	△7.3	3,100	△2.5	2,640	6.1	256.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

(注) 当中間連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2024年3月期に係る各数値及び比較情報については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、(添付資料) 8 ページ「2. 中間連結財務諸表及び主な注記 (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2025年3月期中間期	11,344,181株	2024年3月期	11,344,181株
-------------	-------------	----------	-------------

② 期末自己株式数

2025年3月期中間期	1,022,766株	2024年3月期	1,121,808株
-------------	------------	----------	------------

③ 期中平均株式数 (中間期)

2025年3月期中間期	10,272,077株	2024年3月期中間期	10,322,699株
-------------	-------------	-------------	-------------

※ 第2四半期 (中間期) 決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、第2四半期 (中間期) 決算短信 (添付資料) 3 ページ「1. 経営成績等の概況 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
(4) 中期経営計画に関する説明 .....	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間連結貸借対照表 .....	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 .....	6
中間連結損益計算書 .....	6
中間連結包括利益計算書 .....	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(セグメント情報等) .....	9
(企業結合等関係) .....	9
(収益認識関係) .....	10

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当社グループの当中間連結会計期間(2024年4月1日~2024年9月30日)のわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、景気は足踏みも見られるものの緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、不安定な国際情勢、欧米における高い金利水準の継続、原材料価格やエネルギー価格の高騰、また物価上昇等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

そのような状況下で当社グループの経営成績は、物流部門では海外引越の取扱いが前期を上回って推移し、食品部門では昨年10月にM&Aで100%連結子会社となった株式会社ショクカイ(以下、「ショクカイ」という。)が業績に寄与したことにより、売上高は382億73百万円(前年同期比38.4%増)となりました。営業利益は、ショクカイが業績に寄与したものの、物流部門における外注コストの増加、食品部門のコメ卸売販売における急激な原料玄米価格の上昇、人件費やセキュリティ強化対策コストが増加したことに加え、のれん償却額の増加等により14億89百万円(同18.7%減)となりました。経常利益は前期に計上したシンジケートローン手数料がなくなった一方で、支払利息が増加したこと等により14億30百万円(同4.5%減)となり、親会社株主に帰属する中間純利益は、投資有価証券売却益や事業譲渡益の計上はあったものの、前期に計上した遊休不動産売却による固定資産売却益がなくなったこと等から9億75百万円(同31.1%減)となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### <物流部門>

物流部門では、国内業務においては、倉庫事業で5月より既存顧客の新規受託業務を開始しました。また、国際業務においては海外引越を中心として取扱件数が前年同期を上回りました。この結果、売上高は126億4百万円(前年同期比1.9%増)となりました。一方で営業利益は、庸車費用等の外注コストや人件費の増加、また、本年6月に竣工した本牧埠頭新倉庫の不動産取得税等の計上や減価償却費の増加等により、8億49百万円(同29.1%減)となりました。

#### <食品部門>

食品部門では、コメ卸売販売において昨年の猛暑の影響でコメの生産量が減少した事に加え、災害に備えた備蓄需要があったことから需給が引き締まりました。その結果、原料調達が進まず、精米販売と玄米販売共に前年同期を下回り、精米販売は30千玄米トン(前年同期比18.5%減)、玄米販売は7千玄米トン(同31.7%減)となり、総販売数量は37千玄米トン(同21.4%減)となりました。一方で昨年10月にM&Aで100%連結子会社となった加工食品卸売業のショクカイは事業所給食向けを中心に堅調に推移しました。この結果、売上高は225億28百万円(前年同期比82.4%増)となりました。営業利益は、コメ卸売販売において販売数量減少に加え、原料玄米の急激な価格上昇により顧客への販売価格の転嫁がやや遅れたものの、8月以降の令和6年産の新米販売では顧客への安定供給を行うとともに価格転嫁を進め、また、ショクカイの加工食品販売が概ね堅調に推移し業績に寄与したことから、6億8百万円(同249.0%増)となりました。

#### <情報部門>

情報部門では、汎用機基盤の開発、運用業務は堅調に推移し、売上高は8億93百万円(前年同期比2.8%増)となりました。一方でセキュリティ強化対策コストの増加により営業利益は46百万円(同16.4%減)となりました。

#### <不動産部門>

不動産部門では、高稼働率を維持する中、前期に取得した賃貸物件が寄与し、売上高は22億47百万円(前年同期比8.3%増)となりました。一方で営業利益は、前期に計上した兜町再開貸賃貸物件「KABUTO ONE」の不動産取得税の減額分がなくなったことから、10億円(同9.7%減)となりました。

### (2) 当中間期の財政状態の概況

#### ①資産

資産合計は、新倉庫建設の支払いによる現金及び預金の減少や建設仮勘定の振替によるその他有形固定資産の減少等がありましたが、新倉庫建設による建物及び構築物の増加や時価評価による投資有価証券の増加等から、前連結会計年度末比11億25百万円増加し、1,570億31百万円となりました。

## ②負債

負債合計は、繰延税金負債の増加等によるその他固定負債の増加等がありましたが、返済による長期借入金の減少等から、前連結会計年度末比8億17百万円減少し、990億37百万円となりました。

## ③純資産

純資産合計は、配当金の支払による利益剰余金の減少がありましたが、親会社株主に帰属する中間純利益の計上やその他有価証券評価差額金の増加等から、前連結会計年度末比19億42百万円増加し、579億93百万円となりました。

この結果、自己資本比率は34.1%（前連結会計年度末は33.2%）となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

本日(2024年11月8日)公表いたしました「2025年3月期通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」において記載のとおり、2025年3月期連結会計年度の業績につきましては、食品部門において量販店を中心に精米販売が好調に推移していること等を見込み、売上高においては、業績予想を上方修正することといたしました。一方で、営業利益及び経常利益においては、物流部門における一部荷主の解約やIT関連・人的資本等の将来に向けた基盤整備のための各種投資の増加等により、業績予想を下向修正することといたしました。なお、親会社株主に帰属する当期純利益については、一部事業の売却をおこなったこと等による特別利益の増加が見込まれることから、業績予想を据え置くことといたしました。

## (4) 中期経営計画に関する説明

当社グループは、「多様な人財が集い、社会に貢献する力を生み出す」をパーパス(存在意義)とし、パーパスを確かなものとするため、ヤマタネ2031ビジョンを策定し、「物流と食の流通を通じ、より豊かな社会づくりにチャレンジしていく」ことを掲げており、その第一フェーズである「中期経営計画ヤマタネ2025プラン」(2023年3月期～2025年3月期)では、主要財務目標の達成を見込んでおります。続く第二フェーズである「中期経営計画ヤマタネ2028プラン」(2026年3月期～2028年3月期)においては、パーパス経営の更なる推進とチャレンジ精神溢れる企業文化の醸成の下、収益力の強化や資本効率改善を通じた更なる企業価値の向上に取り組んでまいります。

<ヤマタネ2025プラン振り返り>

単位：億円

	主要財務目標	2024年3月期実績	2025年3月期予想
売上高	565.0	645.1	813.0
営業利益	32.0	34.8	32.3
EBITDA	66.0	69.4	75.2
ROE	5.0%以上	5.1%	5.0%
配当性向	35.0%以上	27.4%	35.0%

<ヤマタネ2028プラン基本方針>

1. 部門別収益管理および部門間シナジー最大化によりグループ全体最適化を進める
2. 資本収益性改善に取り組むと同時に、実行力の高いガバナンス体制を構築
3. 次の100年に向け、社内外のステークホルダーと共に持続的成長の基盤を創る

なお、中期経営計画の詳細につきましては、2024年11月14日に開示を予定しております。

## 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,348	5,383
受取手形、売掛金及び契約資産	9,146	9,607
棚卸資産	2,331	2,640
その他	4,735	5,011
貸倒引当金	△90	△79
流動資産合計	22,472	22,562
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	28,292	30,999
土地	55,513	55,513
その他(純額)	10,530	8,005
有形固定資産合計	94,337	94,518
無形固定資産		
のれん	5,056	4,852
顧客関連資産	7,323	7,148
その他	1,186	1,252
無形固定資産合計	13,566	13,253
投資その他の資産		
投資有価証券	23,408	24,652
その他	2,088	2,037
貸倒引当金	△53	△57
投資その他の資産合計	25,442	26,631
固定資産合計	133,346	134,404
繰延資産	87	65
資産合計	155,906	157,031
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	5,063	5,175
短期借入金	5,800	5,800
1年内返済予定の長期借入金	5,375	6,398
1年内償還予定の社債	1,938	2,595
その他	3,177	3,183
流動負債合計	21,355	23,152
固定負債		
社債	18,409	17,483
長期借入金	39,024	36,730
退職給付に係る負債	1,706	1,633
資産除去債務	2,478	2,777
その他	16,881	17,260
固定負債合計	78,500	75,885
負債合計	99,855	99,037

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,555	10,555
資本剰余金	3,747	3,882
利益剰余金	25,871	26,437
自己株式	△2,462	△2,345
株主資本合計	37,712	38,531
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,192	12,058
繰延ヘッジ損益	42	60
土地再評価差額金	2,872	2,872
退職給付に係る調整累計額	△11	△10
その他の包括利益累計額合計	14,096	14,981
非支配株主持分	4,241	4,481
純資産合計	56,051	57,993
負債純資産合計	155,906	157,031

## (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

## 中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業収益	27,663	38,273
営業原価	23,678	33,719
営業総利益	3,985	4,553
販売費及び一般管理費	2,153	3,064
営業利益	1,831	1,489
営業外収益		
受取配当金	258	281
その他	25	20
営業外収益合計	284	301
営業外費用		
支払利息	242	329
シンジケートローン手数料	346	2
その他	29	27
営業外費用合計	617	359
経常利益	1,497	1,430
特別利益		
固定資産売却益	1,235	5
投資有価証券売却益	-	451
事業譲渡益	-	200
特別利益合計	1,235	656
特別損失		
固定資産除却損	38	71
減損損失	44	-
貸倒損失	13	-
創業100周年記念関連費用	-	104
特別損失合計	96	176
税金等調整前中間純利益	2,636	1,911
法人税等	683	747
中間純利益	1,952	1,163
非支配株主に帰属する中間純利益	536	187
親会社株主に帰属する中間純利益	1,416	975



## 中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	1,952	1,163
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,751	946
繰延ヘッジ損益	79	25
退職給付に係る調整額	0	1
その他の包括利益合計	2,832	973
中間包括利益	4,785	2,136
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,069	1,859
非支配株主に係る中間包括利益	715	276

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

一部の子会社を除き、当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、見積実効税率を使用できない会社については、法定実効税率を使用しております。

(セグメント情報等)

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連			
売上高							
外部顧客への売上高	12,369	12,350	868	2,074	27,663	—	27,663
セグメント間の内部 売上高又は振替高	399	30	116	89	635	△635	—
計	12,769	12,380	985	2,163	28,299	△635	27,663
セグメント利益	1,198	174	55	1,107	2,536	△705	1,831

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△628百万円、のれん償却額△36百万円及び未実現利益調整額0百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「物流関連」セグメントにおいて、減損損失を44百万円計上しております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	中間連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連			
売上高							
外部顧客への売上高	12,604	22,528	893	2,247	38,273	—	38,273
セグメント間の内部 売上高又は振替高	375	38	144	43	602	△602	—
計	12,980	22,566	1,037	2,290	38,875	△602	38,273
セグメント利益	849	608	46	1,000	2,505	△1,016	1,489

(注) 1. セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用△816百万円、のれん償却額△203百万円及び未実現利益調整額0百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(企業結合等関係)

企業結合に係る暫定的な処理の確定

2023年10月2日(みなし取得日2023年10月1日)に行われた株式会社ショクカイとの企業結合について、前連結会計期間において暫定的な会計処理を行っていましたが、当中間連結会計年度に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当中間連結会計期間の中間連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「のれん」91億23百万円は40億67百万円減少し50億56百万円、「顧客関連資産」10億36百万円は62億86百万円増加し73億23百万円となっております。また、固定負債「その他」に含まれております「繰延税金負債」が21億74百万円増加し、「利益剰余金」は44百万円増加しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連	
国内物流	9,946	—	—	—	9,946
国際物流	1,656	—	—	—	1,656
玄米卸売販売	—	2,304	—	—	2,304
精米卸売販売	—	9,656	—	—	9,656
加工食品卸売販売	—	—	—	—	—
システム開発、保守等	—	—	787	—	787
棚卸支援機器レンタル	—	—	71	—	71
その他	90	378	9	51	530
顧客との契約から生じる収益	11,693	12,340	868	51	24,954
その他の収益	676	10	—	2,022	2,709
外部顧客への売上高	12,369	12,350	868	2,074	27,663

当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント				合計
	物流関連	食品関連	情報関連	不動産関連	
国内物流	9,981	—	—	—	9,981
国際物流	1,819	—	—	—	1,819
玄米卸売販売	—	2,514	—	—	2,514
精米卸売販売	—	10,230	—	—	10,230
加工食品卸売販売	—	9,168	—	—	9,168
システム開発、保守等	—	—	821	—	821
棚卸支援機器レンタル	—	—	62	—	62
その他	103	615	9	60	788
顧客との契約から生じる収益	11,904	22,528	893	60	35,386
その他の収益	700	—	—	2,186	2,886
外部顧客への売上高	12,604	22,528	893	2,247	38,273